

第58回

# 神奈川県 美術展

## 中高生特別企画展

THE 58TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2023  
SPECIAL EXHIBITION OF JUNIOR HIGH AND HIGH SCHOOL STUDENTS

期日 2023年9月6日(水)–10月1日(日)

会場 神奈川県民ホールギャラリー

主催 神奈川県美術展委員会  
神奈川県民ホール  
神奈川県  
協賛 一般財団法人神山財団  
株式会社有隣堂  
ゴールデン文具株式会社

---

## 受賞作品目録

---

---

### 神山財団賞

原田 果奈	横浜隼人高等学校	高2	キミとの距離	立体工芸
伊藤 陽菜	横浜隼人高等学校	高2	迷宮入り	平面
橋本 真夏	横浜隼人高等学校	高2	タンスの奥に	平面
小嶋 涼香	神奈川県立川和高等学校	高3	石台孝経	書
佐藤 颯斗	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高1	ふりかけ	写真

---

### 有隣堂賞

加茂 佳恵	横浜隼人中学校	中3	おなかとせなかがくつつきそう	平面
梅澤 芯	向上高等学校	高3	荒草	平面
糸賀 愛莉	神奈川県立白山高等学校	高1	想造	平面
岩原 茉奈	神奈川県立横浜清陵高等学校	高3	ちいさな世界	写真
稲葉 颯	湘南学院高等学校	高3	カモフラージュ	写真

---

### ゴールデン文具賞

波多野かれん	山手学院高等学校	高1	千田一路の句	書
庄堂 葵葉	横須賀市立横須賀総合高等学校	高1	光明皇后 楽毅論(臨書)	書
湯浅 桃子	日本女子大学附属中学校	中3	雄大な山河	書

---

### 美術奨学会記念賞

菱輪 果帆	横浜市立桜丘高等学校	高3	Tofu-Mental	平面
原田帆乃華	横浜隼人高等学校	高3	最後のほのか 17歳	立体工芸
的井 嶺承	葉山町立葉山中学校	中2	臨 始平公造像記	書
山田 玲菜	神奈川県立横浜清陵高等学校	高3	ネットの闇	写真
田淵 航希	神奈川県立湘南高等学校	高2	泡沫夢幻	写真

※掲載順はジャンル順・出品者番号順です。

※神山財団賞は、一般財団法人神山財団から贈られる賞です。

※有隣堂賞は、株式会社有隣堂から贈られる賞です。

※ゴールデン文具賞は、ゴールデン文具株式会社から贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立された賞です。

## 平面立体工芸

岩野実乃里	川崎市立長沢中学校	中1	パラダイスⅡ
山元 優菜	神奈川県立岸根高等学校	高2	レイヤー
内田 美和	神奈川県立多摩高等学校	高2	フラミンゴ
岩切 優奈	神奈川県立多摩高等学校	高2	珈琲箱
安倍一菜子	神奈川県立多摩高等学校	高2	夜明けを羽ばたく妖精
吉留愛桜・ピアンカ	大和市立大和中学校	中3	今日のおやつ
塚原 芽生	横浜市立高田中学校	中3	欲望我慢スル事ナカレ
蝦名 陽平	浅野高等学校	高2	La Mia Testa
竹内 健人	浅野高等学校	高1	惑星
水野 智章	浅野高等学校	高1	complex
武居 祐良	横浜市立桜丘高等学校	高3	想像と創造の未来都市
成瀬 蓮音	綾瀬市立北の台中学校	中2	手剥足付深鉢
谷道 風鈴	横浜隼人高等学校	高1	記憶
高頭 知里	横浜隼人高等学校	高1	järvi
水本 結菜	横浜隼人高等学校	高2	ぼんやりアフタヌーン
移川 晴加	横浜隼人高等学校	高2	Sweetなルームで自分を甘やかしちゃおうHouse
小川 真央	横浜隼人高等学校	高2	海豚
橋本 真夏	横浜隼人高等学校	高2	情動伝染
中村 葵	神奈川県立座間総合高等学校	高3	月が落ちた
星野 結菜	横浜清風高等学校	高2	愛らしい
馬場 依吹	神奈川県立白山高等学校	高1	好きなもの
西村 一真	関東学院高等学校	高2	終始の軌道
滝童内佑季乃	神奈川県立白山高等学校	高1	夜都会
井堀木菜子	横浜市立あざみ野中学校	中3	生命
宮川 春佑	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校	高1	いろをぬりたいまっちゃ
高橋 由依	神奈川県立市ヶ尾高等学校	高3	どうしても届かないなら、小さな羽を集めてみると良い。
齊藤 菜那	横浜市立岩崎中学校	中2	靴

---

入選作品目録

---

書

萩原ひなた	横浜市立大綱中学校	中3	嵐
堀 真彩子	湘南学院高等学校	高3	何紹基 行草山谷題跋語
水越 俊秀	湘南学院高等学校	高3	金農 隸書 文語軸
薄 未莉	湘南学院高等学校	高1	高野切第一種
佐竹 流風	神奈川県立横浜明朋高等学校	高3	臨 伊都内親王願文(橘逸勢)
井上 碧海	KG高等学院	高1	牛橛造像記(節臨)
岩本 颯太	大磯町立大磯中学校	中3	光明皇后 樂毅論
佐々木雪乃	神奈川県立横浜氷取沢高等学校	高1	緑陰自ら喜ぶ夏の堂は涼し
鳥海俐生丸	神奈川県立平塚中等教育学校	6年	開
大貫ひかり	不二聖心女子学院中学校	中3	臨 伊都内親王願文
白井 亜弥	大磯町立大磯中学校	中2	臨 灌頂記
潮崎 るり	神奈川県立港北高等学校	高1	臨 欧陽詢「九成宮醴泉銘」
長田 実莉	神奈川県立港北高等学校	高2	愛
溝田 鈴	横浜共立学園高等学校	高2	切磋琢磨
呉 明恵	神奈川県立光陵高等学校	高1	自書告身 臨書
高井 怜奈	横須賀市立横須賀総合高等学校	高2	魏靈藏造像記(臨書)
矢澤 聖菜	神奈川県立城郷高等学校	高2	十七帖
本橋真悠子	日本女子大学附属中学校	中3	英知の結集
石原あかり	横浜市立南高等学校附属中学校	中3	夏雲奇峰
原田 桃花	横浜市立南高等学校	高1	臨 賢愚經

## 写真

福原 脩介	神奈川県立横浜清陵高等学校	高2	進むパトス
池田 美来	神奈川県立横浜清陵高等学校	高1	放課後、君と
田中 珀	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高3	私の道
増田 晶文	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高2	轍を追う
小川 莉央	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高2	小さな覗き穴
小島 瞬	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高1	立つ者 足を濁さず
上矢 莉央	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	高1	浜の片隅 夢ありき
小嶋 涼香	神奈川県立川和高等学校	高3	私ね、放課後は狼として生きるの。
中村りあん	神奈川県立逗子葉山高等学校	高3	桜梅桃李
石井 斗湧	藤沢翔陵高等学校	高3	手抜き操業
木曾あおい	湘南学院高等学校	高3	どんな夢を見てるの？
山田 凜	向上高等学校	高3	My own way
久保 小夏	向上高等学校	高2	囚われた心
長野 結奈	向上高等学校	高2	Peace
澤 拓実	向上高等学校	高2	最後の夏
西島 煌太	向上高等学校	高1	はじけたソフトクリーム
北尾 峻大	向上高等学校	高1	先輩の姿

神山財団賞「キミとの距離」と題された立体作品は花に覆われた猫、というよりも花そのもので出来た猫と言うべき猫の、煉瓦の壁に向かう情景を、端正に表現した立体です。まずその作品の完成度に目を惹かれました。特に丹念に細部までを作り上げた作品と作者の関係が好ましいと思える作品でした。同じく神山財団賞の「迷宮入り」も平面作品の中で印象深く感じられた作品です。四角い箱に囲まれて戸惑っているように見えるのは作者本人なのでしょう。何が入っているのか、何の手がかりもない解決が付かないものに囲まれている戸惑いと不安をリアルな人物像と単純な図形とで表現している作者の意図が、素直に伝わる作品と思いました。神山財団賞のもう一点、「タンスの奥に」という作品も作者の描画する力を十分に感じさせる作品です。原色と的確な描写で画面いっぱい様々なものが描かれていますが、作者がこれまでに仕舞っておいた様々な思いがここに掘げられているのでしょう。

有隣堂賞の「おなかとせなかがくつつきそう」は思わず笑顔にさせられてしまいます。全体に無理の無い素直な描写で描かれていて、その柔らかな雰囲気、この絵の中心となる顔の表情に、見るものの目を惹きつけてしまう佳作です。同じ有隣堂賞「荒草」は対照的にリアルな写実力に優れていて、豊かな描画履歴の持ち主と思います。ただ絵の世界は広く、ここを出発点として自分の作品の表現として習熟することを期待しています。同じ有隣堂賞の「想造」は大きな作品ではありませんが、細かなものの集積の中から一つの形が生まれてくる美しい作品だと思いました。細部の持つ力も決して侮れません。

美術奨学会記念賞の「Tofu-Mental」は画面の中に何か四角いものが落ちてくる。一体これは何かと思ひ題名を見れば、豆腐と、これで納得。ただ四角

い物体が落ちてくる、この宇宙での出来事のような画面に魅力を感じました。同じく美術奨学会記念賞の立体作品「最後のほのか 17歳」は題名に自分の名前がありますから作者の17歳の心境でしょうか。これから何か変わっていくような、何かが生まれるような感じを受ける不思議な形の組み合わせです。その他、賞にはならなかった作品で、段ボールを素材とした「いろをぬりたいまっちゃ」が自由に生き生きとした絵画の表現の楽しさを伝えてくれました。また、ただ二足の靴を描いただけの「靴」や、「パラダイスⅡ」、「珈琲箱」、切り絵の「生命」など、他にも印象に残る作品がありました。

中高生の作品を審査することになって、審査の基準を何処に置くかを考えましたが、なかなか難しく、結局作品を目にして受ける印象や発見しかないと思いました。審査は終わりましたが、ここで改めて出品された皆さんに伝えておかなければならないと思うことを書いておきたいと思います。

絵を描く、また立体作品を作ると言う事は私たちにとってどんな意味があるのだろうかと考えます。入賞作品が選ばれ、入選、選外とランク付けが決まりましたが、これは他の人間の目から見た一つの評価であって、創作について本当に大切なことは別のところにあると思います。

今回の皆さんの出品作品の制作は、作品となる素材と、それを前にする作者との対面で始められたと思います。制作の途中で様々な事を考え、迷い、作品に近づいたり遠のいたりしながら進められた事でしょう。時には作品から思わぬ反撃を受けることがあったかも知れません。この創られた作品と創った人間との間で起きることが、創作にとって最も貴重なかけがえの無いものだと考えます。その経験の積み重ねが豊かなものを創り出す力になります。

神奈川県美術展の書部門の出品数は書道界の高齢化を反映してか、こここのところ減少の一步を辿っているが、一方この中高生特別企画展は、ほぼ前回並の103点であった。これは少子化が進む中でも、書道に興味を持ってくれる若い力の芽生えが確実に有ることの証でもある。

今回展の作品傾向は、中学生では書写の範疇からその枠を飛び出した古典臨書まで幅広い作品が並び、荒削りながらも書線の力に魅了されるものも多かった。高校生になると一段と書的にも幅が広がり、創作的な作品も多く加わってくる。本格的な古典臨書も数多く、大いに将来を期待させられるものであった。

今回の神山財団賞を受賞された小嶋涼香さんの作品は、唐の玄宗皇帝の「石台孝経」と呼ばれる隷書の臨書作品だ。玄宗皇帝の隷書作の中でも「紀泰山銘」と並び称される隷書の名品である。特にこの隷書は、大きめの文字と小字（いわゆる注に当たるもの）が織り込まれたもので、小嶋さんは、黒い紙面を横長に使用し、大字を金、小字を銀で色分けして揮毫し、鑑賞作品としても従分成立する出来栄えた。臨書としても、玄宗の豊かで肉厚な文字を細部にまで意を通して筆を運び風格高く仕上げ、小嶋さんの審美眼の高さに驚きを隠せない。今回の最高賞に相応しい作品だ。

次いで、ゴールデン文具賞の三作品。最初に、波多野かれんさんの作品は、いわゆる漢字かな交じり書と呼ばれる日本語を書くジャンルのもので、千田一路さんという能登の俳人の俳句を縦一行で表現している。このジャンルは、文字のデフォルメや大小、墨量の変化や筆を運ぶ速度の変化も必要であるため、技術の高さも当然のことながら、表現する気持ちも大切になる。波多野さんの作品は俳句の内容をよく理解し、無理なく筆を運んでいるところが良い。

並びに、庄堂葵葉さん。光明皇后の「楽毅論」の臨書作だ。この古典は本来、書聖と呼ばれる王羲之の「楽毅論」を、光明皇后が臨書したとされるものであるが、源の王羲之より、スピード感と粘りが強い。書線は筆の開閉つまり太細のギャップが大きく、縦画や右払いなどはぐいぐいと押し込むような力強さもある。庄堂さんは、この特徴をしっかりと捉え、強靱な線で一気に通貫した書き振りである。また座りの良い字形は、普段から着実に臨書を進めている証拠であり、この姿勢に大きな賞賛を贈りたい。

同じく、湯浅桃子さんの作品。湯浅さんは中学3年生。同窓のお仲間も書写に忠実な行書作品で、どの作品をとっても字形・書線の確かさは抜群であった。その中でも、湯浅さんの作品は群を抜く力強さがあり、膨よかで円みのある沈着な書線が湯浅さんの強みでもあり魅力でもある。

五賞目は、美術奨学会賞的井嶺承さんの作品。世界遺産にもなった中国の龍門石窟にある始平公造像記の臨書作品である。北魏楷書と称される力強い楷書は書学では必須のものである。がっしりとした入筆や肩のはった転折など、特徴的な筆法のため書写の範囲ではなかなかこの線を出すことが難しいが、的井さんの作品はまず書線が魅力いっぱいである。造形は少し荒削りではあるが、中学生とは思えない深い書線がそれを凌駕し見るものに訴えかけてくる力を有している。

受賞者の皆さん本当におめでとう。

紹介した受賞者のみならず、皆さんの作品は、どれをとっても観るものにエネルギーを与えてくれる。どうかこのエネルギーを絶やすことなく、これからも書が大好きのまま大きく育って行って欲しいと願って止まない。

今年度は前回から応募人数も作品数も増えて、132人から254点の応募がありました。2020年から3年に及んだ新型コロナウイルス感染症は今年5月には「5類」へと引き下げとなり、コロナ禍も収束の兆しを見せつつある中、多くの中高生たちの応募作から、日常を謳歌し、生き生きと写真を撮影している姿を散見することができました。写真は時代を写す鏡であると同時に、時代状況は写真を見る側の心理にも大きく作用するということを審査しながら感じました。なにより、審査会場に並んだ若い人たちのエネルギー溢れる写真の数々に、審査するこちらが大いに元気をいただきました。

砂浜、ピーカン、坊主頭の男子、笑顔一発！ 神山財団賞を受賞した佐藤颯斗さんの《ふりかけ》は、こちらも思わず笑みがこぼれてしまうような作品で、何度も見返してしまい、結果、青春ど真ん中のストレートパンチにノックアウトされました。マスクの時間が長かったせいか、こうした満面の笑顔が一段と輝いて見えます。「ふりかけ」というタイトルにも、じわじわとしたユーモアのセンスを感じます。

有隣堂賞を受賞した岩原茉奈さんの《ちいさな世界》は、教室でのワンシーンを撮影中のコンパクトデジタルカメラの背面モニターを、スマートフォンで撮影したのでしょうか。フレーム・イン・フレームの構図が、キレイな光の中で捉えられています。カメラを持つ指、少し長めのジャージの袖、カメラにつけたストラップ、きっと将来、この赤いカメラも、中に映る教室の一コマも、小さな宝物のように感じる時が来るでしょう。

同賞を受賞した稲葉颯さんの《カモフラージュ》は、モノトーン的車と猫を面白い視点でとらえています。まさにカモフラージュ。猫や犬など身近な動物の写真が多い中、客観性をもって作品に仕上げられています。車の無機質なメタリックボディと有機的

な動物がどちらもこの世に存在していない記号のように見えてきて、デジタル自体の存在の危うさについても考えさせられる作品です。

美術奨学会記念賞を受賞した山田玲菜さんの《ネットの闇》は、スナップ写真の作品が多い中、きちんとしたセットアップ、ライティングで作り込んだ作品です。黒バックの背中を照らす微かな照明がシルエットを作り、闇の中にスマートフォンの光だけで浮かび上がる女性の顔。それとは対照的に、視線の先のネットの世界は外側からは窺い知ることができません。まさにネットの闇。批評性のある作品です。

美術奨学会記念賞を受賞したもう一人、田淵航希さんの《泡沫夢幻》は、弓道部の記念写真風景でしょうか。少し離れた位置からとらえたことで、試合後か何か、部活動の合間の楽しそうな様子が伝わってきます。泡沫、ほとばしる汗、三密。「青春ってすごく密なので」と言った夏の甲子園で初優勝した仙台育英高校の監督の言葉が思い浮かびました。手にした最新のスマートフォンであったり、弓道的に「コロナ」の文字があったりと、よく見ると細部にも今の時代の記録性を感じます。

写真は言語以上に、世界共通のコミュニケーションツールとなっています。そして、今しか撮れない写真があります。ぜひ、皆さんの目の前の光景をこれからもたくさん写真に収めていってください。



縁あって、去年にひきつづき今年も審査に立ち会わせて頂きました。他の3人の審査員の方々がそれぞれのご専門である部門の作品を一つずつ丁寧に、作品名なども確認しつつご覧になり、自分はその傍らで多少のご相談を受けたり、なぜそれらの作品を選んだのかをお尋ねしたりと、とても穏やかで刺激的な時間でした。自分は審査する側ではあるのですが、他の先生方とお話することで多くの学びもありますし、何よりこの時代に若い人々がどのような表現をしているのかに考えを巡らせる貴重な機会となったことを、まずはこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。

この中高生特別企画展に応募するみなさんにとって、いわゆる「ジャンル」というものは一つの指針になる点でとても参考になるものである一方、それを越境するような作品も少なからず見られたと強く感じたのが今年の審査でした。たとえば絵画の中にデザインや漫画／アニメ的な要素があったりするの、普段みなさんが、美術館に並んでいる油彩画を鑑賞するといった経験以上に、どのような「描かれたもの」に日常で接しているのかが垣間見えるように思えます。さらにいえば、彫刻の部門でもよりミニチュア（フィギュア）的、さらには絵画的な要素（着色が多いのが印象的でした）が強い作品が散見できました。若い世代においてすらこの「絵画」と「彫刻」というジャンルは、かつてないほどに広がりを見せているのだというのが率直な印象です。

写真の出品作を観て自分が感じたのは、緻密な構図や撮影上のテクニックが先に来るのではない、もっと温かみや人間味のある写真が印象的でしたし、そうした作風にこそこちらの目がとまる作品も多かった——ということです。友人たちと撮影会を行なって（文字通り）ふれあい、笑顔を写し合っ

ている様子は、私たちが日常に選んでいることを実感させてくれましたし、そうした場面にやはり我々の喜びがあるのだとも痛感しました。デジタル一眼レフ、フィルムカメラ、はたまたスマートフォンなど機材は色々ありますが、結局なにで撮影しようとも、写真というものは選択の積み重ねです。構図、タイミング、被写界深度、現像の際の加工——色々なところにこだわって、写真の可能性にいつそう夢を膨らませてください。

お恥ずかしながら書が一番の門外漢ではあるのですが、型を重んじ、古に倣い、集中力を持続させ、さらにはそこに個性をも込めつつ筆一本で表していく、そんな書道の奥深さを満喫させてくれました。優れた書はまるで卓越したグラフィック・デザインのように感じましたし、また驚くほどにコントロールされている筆の濃淡、線の緩急ついた太さは、優れた絵画作品にも勝るとも劣らない素晴らしいものでした。そうした感性は、書道のみならず色々な場面できっと生きてくるはずですよ。

こうして様々な表現を目の当たりにして、つくづく表現というのは「対話」なのだ、と感じています。自分自身を顧みることも過去の自らとの対話の一種ですし、主題や被写体、古典、素材、そして何より鑑賞者との対話が不可欠なのです。それらを積み重ねることで、あらゆる作品は客観視されていき、多かれ少なかれ歴史化していくこととなります。審査員の一人として、今年出品してくれたみなさんの作品と経験が、一人一人の歴史に何かしらの足跡を残してくれていたら、と願っています。



神山財団賞

キミとの距離

原田 果奈

横浜隼人高等学校 高2

[立体工芸]



神山財団賞

迷宮入り

伊藤 陽菜

横浜隼人高等学校 高2

[平面]



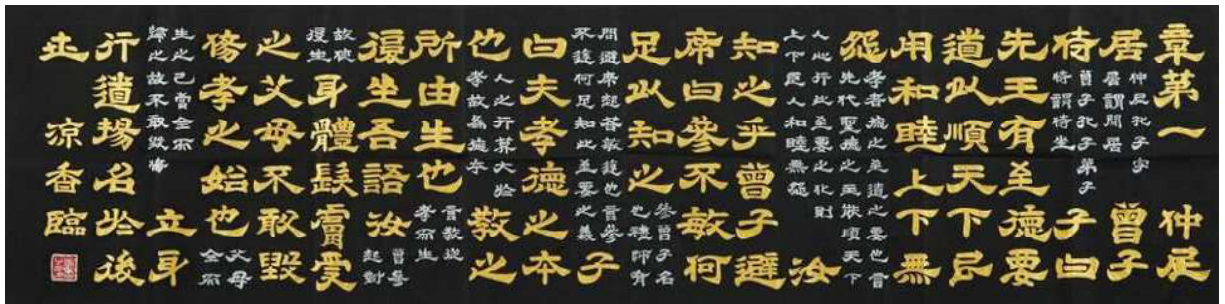
神山財団賞

タンスの奥に

橋本 真夏

横浜隼人高等学校 高2

[平面]



神山財団賞

石台孝経

小嶋 涼香

神奈川県立川和高等学校 高3

[書]



### 神山財団賞

---

ふりかけ

佐藤 颯斗

神奈川県立横浜瀬谷高等学校 高1

[写真]

有隣堂賞

おなかとせなかがくっつきそう

加茂 佳恵

横浜隼人中学校 中3

[平面]



有隣堂賞

荒草

梅澤 芯

向上高等学校 高3

[平面]



### 有隣堂賞

---

想造

糸賀 愛莉

神奈川県立白山高等学校 高1

[平面]



### 有隣堂賞

---

ちいさな世界

岩原 茉奈

神奈川県立横浜清陵高等学校 高3

[写真]





有隣堂賞

カモフラージュ

稲葉 颯

湘南学院高等学校 高3

[写真]

ゴールデン文具賞

千田一路の句

波多野 かれん

山手学院高等学校 高1

[書]



ゴールデン文具賞

光明皇后 楽毅論（臨書）  
庄堂 葵葉  
横須賀市立横須賀総合高等学校 高1  
[書]



ゴールデン文具賞

雄大な山河  
湯浅 桃子  
日本女子大学附属中学校 中3  
[書]





美術奨学会記念賞

Tofu-Mental

袁輪 果帆

横浜市立桜丘高等学校 高3

[平面]

美術奨学会記念賞

最後のほのか 17歳

原田 帆乃華

横浜隼人高等学校 高3

[立体工芸]





美術奨学会記念賞

臨 始平公造像記  
的井 嶺承  
葉山町立葉山中学校 中2  
[書]



美術奨学会記念賞

ネットの闇  
山田 玲菜  
神奈川県立横浜清陵高等学校 高3  
[写真]



美術奨学会記念賞

泡沫夢幻

田淵 航希

神奈川県立湘南高等学校 高2

[写真]

## 審査員

磯見 輝夫、日守 菜穂子、村上 仁一、高嶋 雄一郎

## 応募人数・応募点数・入選点数・入賞点数一覧

令和5年度（第58回）

	平面立体工芸	書	写真	合計
応募人数	149	102	132	383
応募点数	175	103	254	532
入選点数	35	25	22	82
内、入賞	8	5	5	18

令和4年度（第57回）

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募人数	107	3	16	109	112	347
応募点数	123	3	19	111	201	457
入選点数	26	2	8	25	25	86
内、入賞	6	1	0	5	5	17

令和3年度（第56回）

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募人数	121	7	18	81	55	282
応募点数	131	7	25	86	127	376
入選点数	29	4	13	23	19	88
内、入賞	9	0	2	4	3	18

\* 令和4年度は、受賞作品決定後に1作品辞退

## 第58回神奈川県美術展中高生特別企画展

発行：神奈川県国際文化観光局文化課

TEL 045-210-3808（直通）



THE 58TH  
KANAGAWA ART EXHIBITION  
2023

SPECIAL EXHIBITION OF  
JUNIOR HIGH AND HIGH SCHOOL STUDENTS



この図録は、(一財)神山財団の提供で作成しました。